平　成　28　年　度　事　業　報　告　書

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

1　事業の総括

年度当初の事業計画に記した「20年間の成果、課題を検証し、21年目も、ゴールである住民の自立実現に近づけるように活動する」について、団体設立の初年度から続けてきた医療及び教育の分野と事務局運営に焦点を当てて、これまでの成果や課題を確認、28年度の活動を報告する。

1）医療支援

会発足時の最大、かつ緊急のニーズであったCMIP地域（主にビラーン民族居住地域）の医療支援は、20年間の水道や給食支援、栄養・衛生・薬草活用指導などを通じて、特に消化器系患者数が減少、また、医療保険加入指導により入院支援のニーズも減った。また、CMIPは、当団体が17年間協働したヘルス担当者・助産師ジョジョさんを1年半前に解任したため、28年度は、アトモロック母親クラブによる衛生環境改善の活動と奨学生の入院費支援に限定した。

医療分野のもう一つの現地パートナー、ムスリム医療チームPIHSとの母子医療・保健を中心とする協働事業は、4地区のヘルス組合で活動継続のための自主財源事業が成功したが、これらを統括、指導するPIHS本部の財源不足が課題となっていた。28年度は、この自主財源創出と、安全な出産に対するムスリム女性の深刻なニーズの双方に応える事業として浮上した助産所開設企画について、現地PIHSと検討を重ね、会員の協力のほか、年度末には助成金も決まり、課題解決への道筋をつけることができた。

2）教育支援

校舎や給食支援等により、山岳部でも初等教育普及率は9割を超えたと推定しているが、山腹斜面のコーンや根菜類栽培だけでは糊口を凌ぐのが精いっぱいで、子どもには専門教育をと望む住民は多く、カレッジ奨学金のニーズは年々高まっている。一方で、支援会費を月額4000円（従来は3,000円）に値上げしたこともあり、28年度カレッジ奨学金会員の新規加入は皆無となっている。

この希少な恩典を受けた卒業生には、家族、親族だけでなく、地域住民に貢献するために、地元の公立校赴任の条件である教師国家試験/LET合格を推奨してきた。CMIP経由で支援したここ2年間の新卒者からは、28年度を含めてLET合格の報告をまだ受けていない。定収入が得られてかつ地域のためになる職種は、教師を除いて多くない。その中で、ボルールでのアグロフォレストリー事業で住民指導を続ける農業専攻ボニファシオや、ビラーンの伝統織り振興に尽力している経営学専攻のスヌーリアについては、地域に貢献する元カレッジ奨学生のモデル事例として、28年度も小規模事業実施で支えてきた。

一方、3年前の25年度から当団体の事業対象に加わったレイクセブ町のチボリ民族地域は、日本を含む海外の教育支援の歴史が50年以上と、先住民族の村としては特異な教育先進地となっていて、中等教育以上の学歴をもつ親が多く、教育費負担能力は他地域より高いと推測されるが、カレッジ奨学金のニーズは同じく大きい。教育支援窓口のSCMSIから年度当初に届いた奨学生候補のリストに対して、新規受け入れ不可を伝えた。

3）事務局運営

発足以来、代表宅を本部事務局とし、代表が兼務していた専従について、持続可能な事務局運営には有給化が肝要として、新規財源の見込みのない中、専従の給与を予算化した。人件費を含む運営費の財源確保に向けて、認定を受けて寄付収入を増やすという選択はあるが、全国5万1000のNPO法人のうち、認定取得は2%1,000団体余り（2017年1月現在）という超難関の申請に挑戦する余力がなく、28年度は運用しなかった。

横浜市 受付 29.6.15 市民局市民活動支援課

2　各事業分野における活動報告

1）保健・医療

①　CMIPと協働の事業

上段で報告のように、20年間の医療支援の成果として、緊急性を要するニーズは減ったと評価し、CMIP地域については、栄養衛生改善の活動を続けているアトモロック地区母親クラブを指導する教師と、当団体への報告業務を担うCMIP事務スタッフ2名の労務に対し手当を支給した。また、病気やけがによる

学業中断を減らすため、奨学生対象の応急手当や入院費支援をCMIP事務スタッフに委託した。

＜支援実績＞

アトモロック教師からは、在籍生徒80名の父母を中心に、裏庭での野菜や薬草作り、トイレ設置などの努力を続けており、学校薬草園手入れにも多数が参加したという報告をCMIP事務局経由で受けた。

奨学生については、幸い重篤なケースの報告はなく、ノビシエート寮カレッジ奨学生の風邪や腹痛患者に、市販薬やジョジョ助産師が残した薬草園の薬草活用で対応したとの報告を受けた。

患者対応、報告任務を委託したCMIP事務局のスタッフ2名に各月額2000ペソ(4,600円)を支給した。

② PIHSと協働の事業

H14年の協働開始以降継続してきた母子保健を中心とする住民主導の健康な村作り研修は、28年度も地域の組合やPIHSの主導で開催されたが、自主財源のあるバロンギス、ブラコン、ティナガカン、トゥヤンなどを除き、交通費や昼食経費が出ない会場の参加者は少なく、PIHS本部主催の12月の総会は、遠方からの保健ボランティア交通費予算がなく、開催できなかったという報告を受けた。

以上のように、28年度は助成金無しの当団体自己資金のみの支援となった上、修理を重ねて使い続けた2007年支援の診療車もついに動かなくなり、PIHS本部による各地区訪問指導等が十分でなかった。

これらの課題解決のため、上段の総括で触れたように28年度は助産所開設事業に向けた準備を進めた。

＜支援実績＞

＊ ブラコンの石鹸、トゥヤンのバニグ編み、バロンギスの耕運機貸し出しと青年チームの薬草園など地区別自主財源のほか、各地区ともに薬用粉末ジュース生産に取り組み、地区単位の栄養、母子保健研修などの経費はほぼ自己資金で対応できた。自己資金のみの当団体の支援（約30万円）は、PIHS本部の常勤スタッフ給与、交通費、中央研修経費に限定し、最小限の活動を維持しながら、次年度の向けての助産所事業開設に向けて、保健省や健康保険当局との折衝、建築士との打ち合わせを継続した

＊ JOFPA基金で支援の看護師コース2年のモナリサは、学業の傍ら、週末はPIHS主催の給食活動や各種研修会場でスタッフをサポートし、当団体の最小限の支援の中で、活動の質量の維持に貢献した。

2）教育・人材育成

K12（幼稚園のKから12年生まで）と称されるフィリピンの教育制度改革の影響は28年度も続き、前年度3教室の整備支援を実施したSCMSIからは、生徒数増加が続くハイスクール部門の教室増設（既存の高床式校舎床下部分の整備）要請を受けて会報で協力呼びかけた。年度内の協力申し出はない。

CMIPを窓口とするハイスクール奨学生は、それぞれ異なる公立ハイスクールに在学していて、新制度で年限が伸びた中、現況把握や指導管理により多くの労力と時間が必要となっていて、中退奨学生の増加が懸念されるが、現時点ではその報告はなく、25名全員の進級に期待している。

11名の会員で支援してきた住民組合運営ブラクール小学校は、3年前に3㎞の距離に公立小学校ができたが、元あしなが奨学生の教師3名の熱意と公立にはない給食支援があるためか、幼稚部から6年まで合計70－80名と、ここ数年在籍数に大きな変化はない。一方でブラクール支援会員は、年度内に1名の退会があり、従来の支援額維持が難しくなった。今後高学年児童の教育を公立に移管し、ブラクール校教師を3名から2名に減らすなどの対応ができるか現地窓口PFPと検討したい。

＜支援実績＞

① 初等教育支援

＊ ビラーン等貧困家庭の児童25名に、各年額約2,800円の奨学金支援(CMIPと協働)

＊ CMIP運営の小学校（分校含む4校）児童約500人週3回の給食費補助26万円支援（CMIPと協働）

＊　住民組合運営ﾌﾞﾗｸｰﾙ小(約 80 名) 教師 3 名中 2 名分の給与と給食費支援、計 32 万円 (PFP と協働)

＊　SCMSI 校運営支援 (3 小学校教師給与 80%相当)、里子 15 名授業料支援計 250 万円 (SCMSI と協働)

②　中等教育支援：

＊　ﾊｲｽｸｰﾙ生 25 名に各年額 13 千円の奨学金支援。新制度 K12 により新卒業生はいない(CMIP と協働)

＊　SCMSI ﾊｲｽｸｰﾙ里子 39 名の授業料支援。同様に新規卒業生はいない (SCMSI と協働)

③　高等教育支援：

＊　ジェネラルサントスの GFI カレッジ在学 9 名に各年額 6.6 万円(医大進学準備コースの 1 名は年額 16 万円)の奨学金を支援。新卒数は 1 名 (医大進学予定)。前年度卒業を含む新卒生は、ナブル及びバンリ等の辺境の新設小助教諭として働きながら、教師国家試験(LET)に挑戦中 (CMIP と協働)

＊　SCMSI ｶﾚｯｼﾞ里子 14 名の支援と、SCMSI 校出身外部ｶﾚｯｼﾞ生 12 名に年額約 5 万円の奨学金支援 (以上、SCMSI と協働)。2016 年度末卒業生は SCMSI カレッジ卒 3 名。就職先は未定。

＊　あしなが奨学金 (ブラクール出身サルニさんのカレッジ奨学金補助金　年 4.2 万円)

＊　医大生支援：DMSF(ダバオ医大)3 年のアンさん奨学金、年 48 万支援 (CMIP 経由)

④　看護師をめざす学生対象の JOFPA 基金奨学生：

PIHS 推薦ムスリム学生モナリサと、SCMSI 推薦ゴルディ・マリの計 2 名に、各月額約 4100 円を支給。いずれも 6 月に 3 年次に進級予定。

3）農村開発及び環境保全の活動

山岳部先住民族の農村開発事業は、熱帯林修復が前提となるため、環境保全事業との区分が難しいが、WE21 ジャパンみどりの助成を受けて実施した 2016 年度小規模アグロフォレストリーは、2013 年度から続く教育を受けたビラーンの青年たちが、住民組織育成と持続可能な収入向上事業を担うという内容で、農村開発事業に含めた。一方で、環境保全事業としてはレイクセブ町で 3 件の事業を実施した。

＜支援実績＞

①　レイクセブ町ラムダラグ村の 3 年計画の 3 年目に当たるタウォル、ボロウ地区での保護区 5ha の在来種 2500 本の植林、生産区 30 世帯 30ha のゴムとコーヒー苗合計 6900 本の植栽、理念技術研修、モデル農場見学からなる事業が 6 月末に完了した。(緑の募金助成・PFP と協働)

②　レイクセブ町タクネル村 (治安問題でタシマン村から変更) タケヨンでの、保護区 10ha の在来種 2500 本の植林、生産区 20 世帯計 20ha にゴム、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計 6300 本の植栽、理念技術研修からなる「タシマン村の環境修復と持続可能な収入向上事業」2 年目事業が 9 月末に終了した。10 月からは、タシマン村レムズエルで 3 年目に当たる同様の事業を開始したが、ゴム樹液をラテックスにする過程で使用する化学物質がセブ湖の水質汚染につながるとして、ココヤシへの苗木変更申請を提出、2 月に受理された。事業は H29 年 9 月完了の予定。(三井物産環境基金助成・PFP と協働)

③　レイクセブ町タクネル村エルアリスでの保護区 10ha の在来種 2500 本の植林、生産区 20 世帯計 20ha にゴム、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計 4600 本の植栽、理念技術研修からなる事業は、住民からゴムをココヤシに変更する希望が出て、変更申請をした結果受理された。(イオン環境財団助成・PFP と協働)

④　農村開発事業に位置付けたボルールのアグロフォレストリー事業は 1 年間のモニター期間を挟み、再度助成金を受けて、ココヤシ、ゴム、バナナ計 900 本の植栽と理念技術研修を実施した。初年度の 26 年度は住民組織リーダー間のトラブル発生など、未熟な事業管理で成果が十分出せなかったため、28 年度は、先住民族支援の経験豊かな PFP に事業管理を委託し、地元ボルール出身の農業専門家ボニファシオが日常的技術指導を担当した。(WE21 ジャパンみどり助成事業)

4）女性自立支援の活動

① COWHED 支援：前年度には 90%の自立達成と自己評価した COWHED は 28 年度もサウスコタバト州を含むリージョンXII地区の物産展他で高い評価を受け、4，5 月の夏休みを中心にレイクセブを訪れる観光客や湖畔のリゾート施設の研修参加者などで店舗での売り上げも伸びた。日本市場が主たる対象だった 10 年前には見られない地元市民のニーズを反映したデザインのビーズアクセサリーやバッグが、製品作りの主力となっている。また、DTI（貿易通産省）や町の観光局の評価を得て、チボリの民族文化紹介イベント等への出店頻度も増えている。

当団体の支援の比率は下がったが、当団体の活動の目的にある民族のアイデンティティ保持のための支援として、また、日本での特にティナラク織製品愛好者に応えるため、28 年度も約 8 万円を仕入れた。

② ビラーンの伝統織ナバルタビ支援：現地の伝統織及び刺繍技術継承者若干名と事業管理者 2 名からなる NTP(Nabal Tabih Production)支援事業は、年度半ばの 8 月に、主たる織り手ソーニャさんが亡くなり、織の継承者育成が急務となった。年度予算には含まなかった「織の家」補修と、新規に NTP に加わる織り手 2 名の手当などを、年度後半に支援した。縫製技術者育成を含む、アムグオ地区のビラーンの女性支援は、次年度に本格的に始動する予定である。

＜支援実績＞

① 日本での販路拡大活動：フェスタ・バザー、大小 15 回参加。製品の仕入れ先、COWHED へ 3.4 万ﾍﾟｿ/8 万円、ナバルタビ織グループ NTP へ 2.6 万ﾍﾟｿ/6 万円)を支払い、女性たちの収入向上に貢献した。

② COWHED の販売担当手当とカレッジ奨学金計 5.6 万円、NPT 織手 2 名と担当手当計 2.3 万円で、現地組織の運営を支えた。

5）広報・啓発の活動（国内の活動）と事務局運営

① 事務局体制の整備：専従スタッフ 1 名の有給化で、有給専従、非専従計 4 名（うち 1 名は 7 月末付退職）で、助成事業管理、奨学金事業、会員管理、会計、会報、ホームページ、イベント参加等の事務局運営に当たった。

② ホームページ：お知らせ欄更新、トップページ改善などが、担当の高山理事を中心に進められたが、個人情報取り扱いに関するサイトポリシーは次年度持ち越しとなった。

③ 認定 NPO 法人化申請作業：通常の事務局業務が忙しかった他により全く進展しなかった。

＜活動実績　＞

① 季刊「ビラーン通信」発行（85-88 号）は、ネット購読切り替えが進み、87 号から 300 部に減らした。

② ホームページ月 1 回更新(お知らせ欄中心)

③ 年 4 回の活動報告会（5/7,7/30,11/5,1/29 に開催）

④ NGO フェスタ、バザー参加(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、よこはま国際ﾌｪｽﾀ、あーすﾌｪｽﾀかながわ他大小のイベント計 15 回でのミンダナオ島伝統的ハンディクラフト紹介、販売とパネル展示他広報活動

⑤「20 周年記念イベントの開催」6 月 26 日。ビラーン通信バックナンバー集 30 部発行。

注：CMIP（Catholic Mission to the Indigenous People, inc)

COWHED(Cooperative of　Women in Health & Development)

PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.)

PFP(Partners for First Peoples Foundation,Inc)

SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.)

NTP(Nabal Tabih Production)

平成28年度 活動計算書 （平成28年4月～平成29年3月）

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

Ⅰ 経常収益の部

（単位：円）

	科目	28年度予算	決算	差異	摘要
経常収益	受取会費（社員会費	306,000	266,000	40,000	500 円 x 519月/人（43.25人x12か月）
	寄附・医療自立支援	600,000	703,000	▲ 103,000	1,000 円 x 12月 x 58 口
	寄附・教育支援	5,300,000	5,579,100	▲ 279,100	ﾁﾎﾞﾘ2,784,500 ,ｶﾚｯｼﾞ686,000,小・ﾊｲｽｸｰﾙ奨学金980,600,ﾌﾞﾗｸｰﾙ・あしなが356,000,医大生70万
	寄附・一般	2,200,000	2,205,197	▲ 5,197	助産所寄付43万、SEIKO 基金50万、ｸﾘｽﾏｽ寄付9万、他一般寄付（古切手、不用品換金分含む）
	（受取寄附合計）	8,100,000	8,487,297	▲ 387,297	
	受取助成金	3,122,000	3,122,000	0	イオン財団120万 三井106.4万、緑の募金清算金64.7万、WE21みどり21.1万
	事業収益	250,000	122,566	127,434	ハンディクラフト事業収益
	雑収入	1,000	22	978	銀行受け取り利息
	経常収益 計	11,779,000	11,997,885	▲ 218,885	

Ⅱ 経常費用の部

	科目	予算	決算	差異	摘要
事業費	医療・衛生事業費	440,000	428,653	11,347	CMIP: 169,741円（ヘルス報告スタッフ手当、奨学生医療費）、PIHS:258,912円
	人材育成事業費	6,200,000	6,410,183	▲ 210,183	SCMSI(定期248万ｶﾚｯｼﾞ67万)、CMIP（奨学金・国家試験153万給食25万） ﾌﾞﾗｸｰﾙ（定期、あしなが、給食計40万） 医大生アン74万、JOFPA奨学金 27万 モナリサ追加支援（安達資金）7万 他
	農村開発事業費	350,000	360,868	▲ 10,868	WE21みどり支援（助成211,000円）ボルールの小規模アグロフォレストリー
	環境保全事業費	2,850,000	2,855,898	▲ 5,898	ﾀｼﾏﾝ村（三井物産101.2万、イオン財団エルアリス143.2万、緑の募金3年目41.2万
	女性自立事業費	64,000	130,314	▲ 66,314	COWHEDｽﾀｯﾌ手当と奨学金4.6万円、NTPﾅﾊﾞﾙﾀﾋﾞ織手支援他8.4万円
	広報啓発事業費	150,000	168,904	▲ 18,904	3イベント(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、あーすﾌｪｽﾀ、横浜ﾌｪｽﾀ)参加費、ホームページ担当謝礼ほか、
	予備事業費	100,000	0	100,000	
	事業費 計	10,154,000	10,354,820	▲ 200,820	
管理費	人件費	1,440,000	695,500	744,500	専従スタッフ （1,000円 ×60時間x5月、30時間x7月）非専従スタッフ20万円
	通信費	220,000	257,118	▲ 37,118	NTT 12万、会報発送費他郵送料 8万円 その他(寄付による未使用切手分)
	旅費・交通費	130,000	61,995	68,005	非専従スタッフ2名交通費、現地モニター交通費他
	印刷・出版費	75,000	71,122	3,878	会報印刷平均 1、7万円 x 4回ほか
	会費・会議費	55,000	46,960	8,040	国際協力NGOｾﾝﾀｰ(JANIC)・日比NGOﾈｯﾄ(JPN)・横浜NGO連絡会(YNN)・会費計4.5万他
	手数料	10,000	9,232	768	海外送金手数料ほか
	消耗品費	55,000	23,144	31,856	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
	備品・什器購入費	5,000	0	5,000	
	事務局賃借料	120,000	120,000	0	事務局家賃（1万円 x 12ヶ月）
	保険料	15,000	5,780	9,220	労災保険、海外旅行保険
	管理費 計	2,125,000	1,290,851	834,149	
	経常経費 計	12,279,000	11,645,671	633,329	

当期正味財産増減額	352,214
前期繰越正味財産額	1,772,030
（うちJOFPA基金）	1,432,989
次期繰越正味財産	2,124,244
（うちJOFPA基金）	1,109,267

註：（JOFPA基金）平成25年5月末に活動を終了したチボリ国際里親の会（略称JOFPA）の残余財産。JOFPAの事業の一部を引き継いだことから、当団体が残余財産を受領、看護師志望の学生を対象とする奨学金に充当している。

貸　借　対　照　表

平成29年3月31日現在

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

科　　目	金　　額	
Ⅰ資産の部		
Ⅰ流動資産		
現金預金	2,124,244	
流動資産合計	2,124,244	
2　固定資産		
固定資産合計	0	
資産合計		2,124,244
Ⅱ　負債の部		
1　流動負債		
前受け金	0	
流動負債合計	0	
2　固定負債		
固定負債合計	0	
負債合計		0
Ⅲ　正味財産の部		
正味財産		
前期繰越正味財産額		1,772,030
当期正味財産増加額		352,214
正味財産計		2,124,244
負債及び正味財産合計		2,124,244

財　産　目　録

平成29年3月31日現在

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

科　　目	金　　額
Ⅰ資産の部	
Ⅰ流動資産	
現金預金	
現金手許有高	24,826
普通預金　三菱東京UFJ銀行青葉台駅前支店	2,021
三井住友銀行青葉台支店	607,636
ゆうちょ銀行	1,451,428
郵便振替口座	38,333
流動資産合計	2,124,244
2　固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	2,124,244
Ⅱ　負債の部	
1　流動負債	
助成金前受金	0
流動負債合計	0
2　固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
正　味　財　産	2,124,244